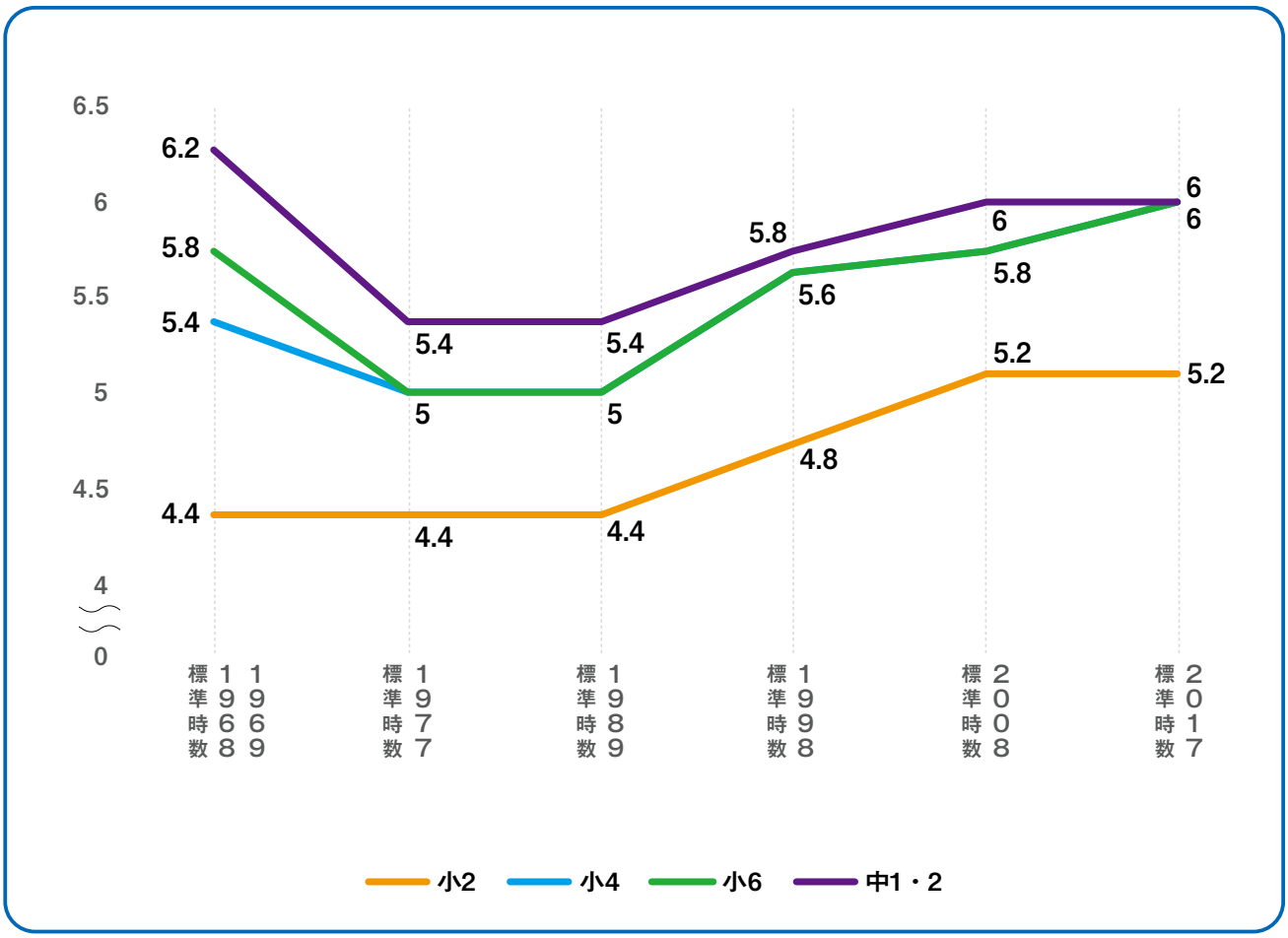
平日１日の時数の変遷



（大森直樹研究室　作成）

1968年･1969年(週6日制)　小学校(6年)5.8時間　中学校(1･2年)6.2時間

数学者の遠山啓が「肥大なカリキュラム」と批判。

- 授業時数とその内容があまりに大きいと、多くの子どもたちがついていけない。
- ついていけたとしても、内容を消化するのに忙しくて、自分の頭で考える時間がない。

この批判は教育界で立場を超えて共有され、次期学習指導要領改訂で改善が図られる。

1977年～(週6日制)　小学校(6年)5時間　中学校(1･2年)5.4時間

批判を受け「肥大なカリキュラム」が改善。
第１次ゆとりの標準時数。

出典
大森直樹編著、永田守、水本王典、水野佐知子著
『学校の時数をどうするか―現場からのカリキュラム･オーバーロード論』2024年、明石書店
「標準時数の変遷に関する調査－結果と提言－」2024年5月
「中学の標準時数の変遷に関する調査－結果と提言－」2024年11月
報告書は教育総研HP内に掲載　https://www.k-soken.gr.jp/pages/46/